

九州では、冬に雪山で遭難する、ということは少ないですが、全国的に見てゆくと、冬にはしばしば雪山で遭難する事故が起こります。雪山を十分な準備をしないで登る人の無責任さを批判することがありますが、そんな遭難した人を助けるための、救助隊の仕事には頭が下がります。

私は、イエス様の受洗というのは、遭難した人を、自ら危険をおかして救いに行く、救助隊の、象徴的な行為だと思っています。その話をします。

今日の福音書の終わりの方、21節に「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられる」というふうに書かれています。あたかも、人々が受ける洗礼とイエス様の受ける洗礼が、同じものであるかのようですが、決定的な違いがあります。それは、イエス様は罪を犯していない、ということです。

「あなたがたも知っているように、御子は罪を除くために現れました。御子には罪がありません。」(Iヨハネ3:5)、と書かれています。これらのことは、他にもパウロ(IIコリント5:21)やペトロ(Iペトロ2:22)も指摘しています。洗礼が、もし罪の汚れを洗うものであるのなら、イエス様は、それを受ける必要はなかった、ということになります。

ところが、洗礼というのは、ただ汚れを洗い流すためだけではなくたのです。パウロは、洗礼を、イエス様と結びつくためのものだ、そしてそれは死ぬということも意味する、と説明しています。

ローマの信徒への手紙6章3節「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。」

ユダヤ人は、砂漠の民でしたから、水の大切さを良く知っています。しかしまた、砂漠に急に上流の雨水が押し寄せて、鉄砲水になる、水の恐ろしさもまた知っているのです。

詩編69編の最初に、

「神よ、わたしを救ってください。大水が喉元に達しました。わたしは深い沼にはまり込み、足がかりもありません。大水の底にまで沈み、奔流がわたしを押し流します。」(詩69:2~3)  
というのがあります。

人間が聖書の始めに罪を犯して以来、人間と神様の間には、大きな断絶、ちょうど川のような隔りがあるのです。そんな人間を神様は何とかして、自分のいる天国の側に人々を導き入れたい、と望んで救い主を私たちの方に遣わされた、というふうに理解しています。

2週前、年末の12月29日の日曜日は、降誕後第1主日でしたが、その日の特祷には、人間の創造とキリストの降誕のことが語られた後、神様が人間に近づかれたことと、人間の側で、神様に近づこうとしていることが述べられています。

「全能の神よ、あなたは驚くべきみ業によりわたしたちをみかたちに似せて造られ、さらに驚くべきみ業により、み子イエス・キリストによって、その似姿を回復してくださいました。どうか、主が人性を取って、わたしたちの内に来られたように、わたしたちも主の神性にあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。」

これは、人間が神様の反対側の岸にいて助けを求めているのに対して、神様の側からも助けのためにイエス様が働きかけようとしておられることを示しているのです。

このたとえば、何度も話したことがあるので、「またあの話か！」と思われるかもしれませんが、

人間が救われるためには、自分の側の岸から川に飛び込まなければなりません。それが、私たちの受ける洗礼ということになるでしょう。そして、イエス様は、川に飛び込んだ人を救うために、自らは安全なところに居るのに、危険を覚悟でレスキュー隊のように川に飛び込んでくださった。それが、主イエスの洗礼ということだと私は信じています。

神の子として、この世に生まれたイエス様は、およそ30歳の時、ヨハネから洗礼を受けて、川に飛び込んで、人々を救う活動を開始された、ということをお忘れずに憶えておきましょう。そして、私たちもそれに応じて、川に飛び込んで洗礼を受けたこと、それを憶えておいていただきたいのです。

今日の特祷では、それに加えて、私たちが洗礼を受けた時の約束を守り、御子を主また救い主として大胆に告白することができるように、と祈っています。

私たちの洗礼の時の約束は、祈祷書278ページに書かれています。これについては、またいつか話さなければなりませんが、御子を主また救い主と告白する、というのは、元旦の、主イエス命名の日の説教でも触れました。

イエス様が主だ、というのはイエス様が、神である、という意味です。そして、イエスという名前が「神は救い」という意味であり、キリストという称号も、もとは、王、祭司、預言者などが任命される時に油を注ぐことから始まった「油注がれた者」ということですが、それが転じて、救い主という意味になりました。神様から遣わされた御子は、神であり、救い主であることを私たちは確認し、その方を生涯の模範とする、というのが洗礼を受けたものの生き方である、ということを感じていただきたい。

私たちの歴史は、イエス様の誕生という出来事によって、紀元前と紀元後に分かれます。紀元前というのは、B. C. と略して書きます。これは、英語の **BEFORE CHRIST** (キリスト以前) という意味です。そして、紀元後は、**ANNO DOMINI** (主の年) というラテン語です。しかし、わたしたちがキリストを模範として生活しないなら、いくら今年が2022年であっても、わたしたちは、キリストを知る前の紀元前の生活になっています。今年が本当に、主の年2025年、キリストと共に歩む2025年になるよう、キリストに倣うものとして歩みたいと思います。